

令和6年度採択プロジェクト

各部局とのマッチング及び審査を実施し、以下2件を採択しました。

令和7年1月より、随時実証実験を開始いたします。

「QR Translator を活用した多文化共生時代における公共サービス・コミュニケーション」株式会社 PIJIN

【実証実験概要】

「QR Translator」は、ユーザーの携帯端末の設定言語に応じて情報を表示する仕組みを備え、QRコードを中心にさまざまなインターフェースに対応した情報インフラです。この仕組みを導入することで、大田区における多文化共生のさらなる推進を目指します。

①環境清掃部清掃事業課と連携し、プラスチック分別回収制度の周知に「QR Translator」を導入。令和7年4月1日より区内全域で実施される「プラスチック分別回収」に関するルールを15言語で案内することで、外国人にも分かりやすく正確な情報を提供します。

②区民部国保年金課と連携し、国民健康保険料納入（変更）通知書に「QR Translator」を導入。通知書の構成や見方を15言語で案内することで、外国人にも分かりやすく正確な情報を提供します。

いずれも多国籍化・多言語化が進む大田区の地域特性に対し、誰にでも同等な住民サービスを提供すると同時に、印刷物の削減、コストの低減や業務効率化を図ることで、サステナブルな多文化共生社会を目指す試みとなります。

【マッチング部局】

区民部国保年金課・環境清掃部清掃事業課

【採択事業者】

[株式会社 PIJIN \(外部サイト\)](#)

「世界を言語バリアフリーに」を企業理念に、多言語対応ソリューション QR Translator を開発・運営しています。多言語と音声でユニバーサルに情報の提供と収集を可能にするプラットフォーム・サービスを、国内外に提供しています。

「持続可能な DX だから実現できる公共交通の利用促進を起点とした地域 活性化プロジェクト」 RYDE 株式会社

【実証実験概要】

まちづくり推進部 都市計画課と連携し、二次交通のデジタルトランスフォーメーション (DX) を推進する実証実験を開始いたします。

大田区では、矢口地区の交通不便地域の改善を目指し、平成 20 年度から地域住民や区、関係機関などが連携してコミュニティバス導入の検討を進め、平成 21 年 10 月に大田区初のコミュニティバス「たまちゃんバス」の試行運行を開始し、令和元年 7 月に本格運行へと移行しました。

今回の実証実験では、モビリティプラットフォーム「RYDE PASS」を活用し、キャッシュレスでの乗車券購入が可能になるほか、デジタル化によって取得されるデータを活用し、「たまちゃんバス」が市民の生活の質 (QOL) をさらに向上させる存在となっていくことを目指します。

【マッチング部局】

まちづくり推進部都市計画課

【採択事業者】

[RYDE 株式会社 \(外部サイト\)](#)

「世のため、ひとの移動のため。」をビジョンに掲げ、デジタルの力を通じて、“まちの移動”を、もっとわかりやすく、簡単に、楽しくすることで、一人ひとりの毎日をより良く、まちの未来もより良くできると信じ、日々事業に取り組んでいます。

まちの公共交通のデジタル化を通じた社会のリデザインをミッションに、地域や資本の大小に関わらず、あらゆる地域公共交通のデジタルサービス化を実現し、次世代に向け地域公共交通が変わること、そして豊かで持続可能な社会の実現に向け努めてまいります。